

引用・参考文献（アルファベット順）

- 阿久津勝, 1998, 「日本マンガのアジア事情」, 小川功 編, 1998, 102-107 頁。
- Anderson, B., 1983, *Imagined Communities: Reflections on the Origins and Spread of Nationalism*, London: Verso. = アンダーソン、ベネディクト, 1987, 白石隆・白石さや 訳 『想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』リポート。
- アング、イエン, 1998, 「オーストラリアの『アジア的』将来に立ち向かって グローバリゼーションと国民的恐怖の政治」, 伊豫谷 他編, 1998, 180-20268頁。
- 『アニメ批評』編集部・加藤サイ九郎, 1999, 特集「アジアアニメは日本を凌駕するのか?」 『アニメ批評』創刊準備号, 76-93 頁。
- Aries, P., 1960, *L'enfant et la vie familiale sous l'ancien regime*, Paris: Edition du Seuil. = アリエス、フィリップ, 1980, 杉山光信・杉山恵理子 訳 『<子供>の誕生 アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』みすず書房。
- 東浩紀・伊藤剛, 1998, 「オタクから遠く離れてリターンズ」 『クイック・ジャパン』 VOLUME21, 187-191 頁。
- ベルント、ジャクリーヌ, 1994, 佐藤和夫・水野邦彦 訳 『マンガの国ニッポン 日本の大衆文化・視覚文化の可能性』花伝社。
- Barral, É., 1999, *OTAKU Les Enfants du Virtuel*, Paris: Éditions Denoël. = バラール、エチエンヌ, 2000, 新島進 訳 『オタク・ジャポニカ 仮想現実人間の誕生』河出書房新社。
- 『ブルータス』編集部 編, 2000, 特集「ANIME DU MONDE 世界は、アニメで回っている!？」 『ブルータス』2000年9月1日号, 22-103 頁。
- カステッラツィ、ダヴィデ, 2000, 「日本ブームの牽引車 <イタリア>」 『中央公論』2000年9月号(研究『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 220-223 頁。
- Featherstone, M., 1995, *Undoing Culture: Globalization, Postmodernism and Identity*, London: Sage.
- 船津衛, 1995, 「『自我』の社会学」, 井上俊 他編, 1995, 『自我・主体・アイデンティティ』岩波書店, 45-68 頁。
- 浜野保樹, 2000, 「質・量のための日本製アニメ」 『中央公論』2000年9月号(研究『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 207-211 頁。
- ハナース、ウルフ, 1991, 「周辺文化のためのシナリオ」, King, A. D. (ed.), 1991 = キング、A. D. 編, 1999, 150-170 頁。

柱本元彦, 1996, 「抑圧された子供たちのために」 『ユリイカ』 1996年8月号, 174-177頁。

黄健和, 2000, Sakai Toru 訳「希望はネットに移った <台湾>」 『中央公論』 2000年9月号 (研究『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 212-216頁。

五十嵐暁郎 編, 1998, 『変容するアジアと日本 アジア社会に浸透する日本のポピュラーカルチャー』 世織書房。

五十嵐暁郎, 1998, 「『ジャパナイゼーション』とは何か」, 五十嵐暁郎 編, 1998, 1-24頁。

伊豫谷登士翁・酒井直樹・テッサ・モリス＝スズキ 編, 1998, 『グローバリゼーションのなかのアジア カルチュラル・スタディーズの現在』 未来社。

岩淵功一, 1998, 「文化的無臭性それともアジアンモダニティーの芳香? - 東アジア市場への日本の文化輸出」, 五十嵐暁郎 編, 1998, 41-79頁。

賀茂美則, 2000, 「ポケモンが輸出した『クール』な日本と日本人」 『朝日新聞』 2000年1月20日。

木村立哉, 1996, 「『森林鉄道』は解体されながら走れるか? アニメーションをとりかこむ環境」 『ユリイカ』 1996年8月号, 95-99頁。

King, A. D. (ed.), 1991, Culture, Globalization and the World-System: Contemporary Conditions for the Representation of Identity, State University of New York at Binghamton. = キング、A. D. 編, 1999, 山中弘・安藤充・保呂篤彦 訳『文化とグローバル化 現代社会とアイデンティティ表現』 玉川大学出版部。

久保雅一, 2000, 「仕掛人が明かすポケモン米国制覇の秘密」 『論座』 2000年2月号, 78-86頁。

倉沢愛子, 1996, 「『ドラえもん』vs中産階級 - インドネシアにおけるジャパニメーション」 『ユリイカ』 1996年8月号, 107-111頁。

ロンドン・アニメ・クラブ, 1998, 「日本アニメを愛するロンドンのマニア達」, 小川功 編, 1998, 38-45頁。

マッカーシー、ヘレン, 1996, 毛利嘉孝 訳, 「日本に行ったことはないけれど<インタビュー>」 『ユリイカ』 1996年8月号, 158-163。

町村敬志, 2000, 「再加熱イデオロギーとしてのグローバリゼーション 『世界都市』 東京の動機づけ危機」 『現代思想』 2000年10月号, 62-79頁。

マーティン、アントニオ, 2000, 「歴史的危機 <スペイン>」 『中央公論』 2000年9

月号(研究『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 228-231 頁。

みくに杏子・小野塚謙太, 1999, 「海外アニメ博覧会」『アニメ批評』1999 年秋号, 54-61 頁。

M・加藤, 1998, 「韓国の日本マンガ・アニメ事情」, 小川功 編, 1998, 108-119 頁。

毛利嘉孝, 1996, 「ジャパニメーションとジャパナイゼーション - イギリスにおける日本のアニメの受容」『ユリイカ』1996 年 8 月号, 150-157 頁。

村上隆, 1996, 「ジャパニメーションは伝染する」『ユリイカ』1996 年 8 月号, 136-139 頁。

, 1997, 「こぼれ落ちた一粒の種 ジャパン・アニメの結晶 = 『エヴァ』が世界制覇する日を夢見て」『スタジオ・ボイス』1997 年 3 月号, 37 頁。

, 1999, 「拝啓 君は生きている -TOKYO POP 宣言-」『広告批評』1999 年 4 月号, 58-59 頁。

村上隆・森村泰昌, 1999, 対談「ART とアートのあいだで日本の美術は揺れている」『広告批評』1999 年 4 月号, 86-102 頁。

ムラカミタカシ, 1996, 「ジャパニメーションの今」村上隆編『HIROPON』(フリーペーパー)

荷宮尚樹, 1998, 「YMO はもう古い! 世界に進出した日本製ゲームのアレやコレや」, 小川功 編, 1998, 126-139 頁。

小川功 編, 1998, 『日本漫画が世界ですごい!』たちばな出版。

大畑晃一, 1996, 「アニメリカへの招待」『ユリイカ』1996 年 8 月号, 88-94 頁。

岡田斗司夫, 1995a, 「日本に恋する米国のオタク」『アエラ』1995 年 10 月 2 日号。

, 1995b, 「日本文化としてのアニメ」『キネマ旬報』1995 年 10 月上旬号。

, 1996a, 『オタク学入門』太田出版。

, 1996b, 「ANIMEamerica レポート」『日経トレンドィ』1996 年 10 月号。

, 1997, 「アニメは現代の浮世絵だ」『ニューズウィーク 日本版』1997 年 7 月 30 日号, 53 頁。

, 2000, 「日本のクリエイターが消滅する前に」『中央公論』2000 年 9 月号(研究『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 202-206 頁。

小野耕世, 1998, 「日本マンガの浸透が生み出す世界」, 小川功 編, 1998, 76-91 頁。

太田好信, 1998, 『トランスポジションの思想 文化人類学の再想像』世界思想社。

ぽぼころー (POPO COLOR), 1998, 「フランスにおけるアンダーグラウンド・ジャ

パン」, 小川功 編, 1998, 46-58 頁。

ブランドーニ、フランチェスコ, 1998, 「ファースト・インパクト イタリアの場合」, 小川功 編, 1998, 16-37 頁。

ロバートソン、ローランド, 1991, 「社会理論、文化相対主義およびグローバル性の問題」, King, A. D. (ed.), 1991 = キング、A. D. 編, 1999, 105-128 頁。

Said, E. W., 1978, *Orientalism*, New York: Georges Borchardt Inc. = サイド、E. W., 1993, 今沢紀子訳、板垣雄三・村田秀明監修 『オリエンタリズム』 平凡社ライブラリー。

斉藤守彦, 1997, 「『攻殻機動隊』全米 NO.1 の恍惚と不安 ジャパニメーション世界制覇は実現するか?」 『日経エンタテインメント!』 1997 年 5 月号, 48-50 頁。

斉藤環, 2000, 『戦闘美少女の精神分析』 太田出版。

桜井哲夫, 2000, 「速度のなかの文化 九〇年代の意味」 『大航海』 2000 年 8 月号, 7152-59 頁。

Schodt, F. L., 1996, *Dreamland Japan: writings on modern manga*, Berkeley: Stone Bridge Press. = ショット、F. L., 1998, 樋口あやこ 訳 『ニッポンマンガ論 日本マンガにはまったアメリカ人の熱血マンガ論』 マール社。

白石さや, 1998, 「マンガ・アニメのグローバルイゼーション」, 五十嵐暁郎 編, 1998, 317-349 頁。

武田亨, 2000, 『イツ・ザ・ニンテンドウ』 ティーツー出版。

Tomlinson, J., 1991, *Cultural Imperialism: A Critical Introduction*, London: Pinter Publishers. = トムリンソン、ジョン, 1993, 片岡信 訳 『文化帝国主義』 青土社。

, 1999, *Globalization and Culture*, Cambridge: Polity Press. = トムリンソン、ジョン, 2000, 片岡信 訳 『グローバルイゼーション 文化帝国主義を超えて』 青土社。

上野俊哉, 2000, 「トライブとボーダーにかかわりあう 10 冊」 『インターコミュニケーション』 No.33, 116-117。

ヴェレ、ドミニック, 2000, Uno Takanori 訳 「普通の文化消費財へ <フランス>」 『中央公論』 2000 年 9 月号 (研究 『滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今』), 224-227 頁。

ヴィラット・ティーカプティサクル, 2000, 「啓発と破壊 <タイ>」 『中央公論』 2000 年 9 月号 (研究 「滑落する日本製アニメ・マンガ 最大の輸出ソフト産業は今」), 217-219 頁。

ウォーラスティン、イマニュエル, 1991, 「国家的なものや普遍的なもの 世界文化というようなものがあるか」, King, A. D. (ed.), 1991 = キング、A. D. 編, 1999,

129-149 頁。

山本尚人, 1998, 「アメリカ・マンガ事情」 『ワイアード』 1998 年 9 月号, 54 頁。

山下洋一, 1998, 「『もののけ姫』は世界市場を席卷するか？」 『ワイアード』 1998 年 2 月号, 58-60 頁。

吉見俊哉, 1997, 「アメリカナイゼーションと文化の政治学」, 井上俊 他編, 1997, 『現代社会の社会学』 岩波書店, 157-231 頁。

吉野耕作, 1997, 『文化ナショナリズムの社会学 現代日本のアイデンティティの行方』 名古屋大学出版会。